

令和4年度指導教諭による「授業力アップ講座」⑦⑧

本年度も指導教諭の優れた授業及び協議、講義、実技講習指導等を広く公開し、授業改善、指導力向上等を図る講座を開設しています。今号では、中学校国語と小学校特別支援の2つの授業力アップ講座を紹介します。

12月6日(火) 奥州市立水沢中学校 第1学年 国語 佐藤 明子 先生

授業：価値を見いだす 「不便」の価値を見つめ直す

佐藤先生の授業から学ぶ国語の授業のポイント！

- この学習(活動)は、「何のためにやるのか」(どんな力につながるのか)を意識して授業を展開すること。
- デジタル・アナログのそれぞれの良さや児童生徒の実態を確認したうえで、ICT機器を活用すること。

1 授業参観

授業の最初に、要約するのは何のためにかを明確にしてから活動に入りました。活動を進める際には、タブレットを使う生徒、印刷された紙媒体を使う生徒等、自分に合った方法を選んで進める姿が見られました。質問が出された時やつまづいている生徒が見られた時は、その内容によって個に応じた指導と全体指導を効果的に使い分けながら授業を進めていました。「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実が図られた授業でした。



2 ICTの活用

タブレットを活用して教科書本文のデータを切り貼りしながら文章を絞らせたり、マーカーでキーワードに線を引かせたりしながら要約を行いました。また、教科書のQRコードからインタビュー動画を視聴し、筆者の考えをより詳しく捉えることができました。さらに、Jamboardを活用し多様な考え方の交流に役立ちました。

3 協議

言語活動を設定する際は、児童生徒の実態を考慮しながら身に付けさせたい力を選択し、それに適した言語活動を取り入れていくことが大切であることが話題に挙がりました。ICT活用についても、作業のスマート化、共同作業のやり易さなどのメリットをいかしながら、積極的に使うことが大切だということを確認しました。

参加者の声(一部抜粋)

- ・明確な課題設定から始まり、個に応じた指導、時には全体で確認しながら進めている様子が参考になりました。
- ・ICTを活用し、200字に要約するというゴールが明確であることで生徒の意欲につながる手法を拝見することができ、大きな学びを得ることができました。
- ・冒頭で何のために200字の要約をするのか、必要感をもって取り組むための確認があり大変参考になりました。

12月8日(木) 一関市立山目小学校 特別支援 井上 美由紀 先生

講義・実技演習：特別支援学級におけるICTを活用した指導

井上先生の講義から学ぶ特別支援ICT活用のポイント！

- これからの社会の変化に対応できるように、積極的にICTを使用し、情報活用能力の素地を育むこと。
- 様々なアプリやサイトで何ができるのかを知るためにも教師自身がICTに慣れていくこと。

1 講義

日常的にICTを使うことの大切さについて触れ、よく使う機能やソフト、効果的な活用法を紹介されました。

- ①カメラ機能…観察記録をつけたり実物を拡大し細かいところまで確認したりするのに役に立つ。
- ②QRコードやデジタル教科書…児童に必要な動画や資料を見せたり、児童が自分で調べたりできる。
- ③キューブキッズ等…必要なスキルを身に付けたり意欲を高めたりすることにつながる。

☆これらのよく使う機能は、タスクバーにピン留めておくと使いやすい。



☆ICT機器の利用は、資料提示、カードやテンプレートの配付、考えの交流、作業や活動の記録、アンケート等を行う時に有効である。また、個別支援にも活用できる。

2 演習

ロイロノートを使って、自己紹介のシートを作成しました。写真の貼り付け、文字の書き込み、リンクの貼り付け等を楽しみながら行いました。また、教材作成に役立つサイト「Teach U」を閲覧し、各自が興味のある資料を実際に試してみました。たくさんの情報や資料がある中で、児童の実態に合わせてカスタマイズしながら、個に応じた学習に繋げていくことが大切だと確認しました。

参加者の声(一部抜粋)

- ・これからの子ども達は、ICT活用は必須なので、指導する私自身ももっと様々なものを試し、子ども達に与えていけるように努力したいと思います。
- ・具体的な活用方法や使用法をたくさん知ることができ、とても参考になりました。
- ・一人一台端末の習熟規準表の中で段階的に使用・活用が進められていることに驚きました。